

文 献 紹 介

岩上二郎著『公文書館への道』が、4月に刊行された。この著作は、岩上氏が取り組んできた公文書館法が成立したことを契機に、法成立に至る歩みをふりかえり、あわせて今後の文書館問題に言及したものである。

本書は、次のような5部構成となっている。

「公文書館法」成立、活動のなかから、〈座談会〉公文書館(法)と史料保存の意義、公文書館(法)理解のために、資料

(発売・田畑書店、2,200円)

国文学研究資料館史料館(国立史料館)編『史料の整理と管理』が、5月に刊行された。本書は、わが国の文書館学の立ち遅れに対する反省をもとに企画され、文書館学の確立に寄与し、専門職員(アーキビスト)の業務に役立たせることを目的に執筆、編集したものだ、ということである。

本書は、2部構成で、第1部は「史料整理・管理の基礎知識」と題し、全7章構成である。第2部は「史料の特質と目録編成」と題し、5つの章で構成されている。

(発売・岩波書店、3,700円)

文書館学関係外国文献

これまで余り知られることのなかったオーストラリアおよびカナダで刊行された史料管理学の書物を紹介しよう。

“Keeping Archives” Australian Society of Archivists. Ann Pederson (ed.).

1987年に刊行されたこの書物は374ページもある大冊である。第1章史料管理専門職を目指して、第2章史料保存の基礎、第3章収集と評価、第4章受入れ、第5章史料配列と記述、第6章検索手段、第7章閲覧および参考サーヴィ

ス、第8章物理的保存、第9章電算機およびマイクロ写真の導入、第10章文書館における書誌情報解析、第11章利用者教育と広報、付録、用語定義集、索引、といった内容をもっている。まづは標準的な概説書といえよう。しかし毎ページに入っている多数の実例引用と豊富な写真掲載は、読者の理解を助けるのに役立っている。たいへん親切な作り方といえる。

“Toward Descriptive Standards, Report and Recommendations of the Canadian Working Group on Archival Descriptive Standards” Bureau of Canadian Archivists.

1985年に刊行されたこの192ページの書物は、カナダにおける様々な文書館および類縁機関での既存の記述の仕方についての調査を実施し、その結果を分析し、その上で記述の標準化への提言を行なっている。81ページ以後はそうしたアンケート調査の質問項目や、文書群毎の電算機検索用の必要項目を列挙している。さらに英語仏語いずれかで書かれた記述にかかわる267点にもよる参照文献の解説目録があって、たいへん便利である。(安澤秀一氏 寄)

■編集後記■

公文書館法の制定にともない、公文書館(法)問題について熱い論議が交わされています。公文書館法問題小委員会の「中間報告」は、この論議に一石を投じたわけですが、この「中間報告」に対する様々な意見や批判を寄せていただきました。小特集を組んでみました。これら提示された問題を含め、今後も文書館問題を検討していかなくてはなりません。

沖縄大会では、同じく公文書館(法)問題が論議されます。稔りある議論が交わされ、文書館運動の発展につながることを期待されます。

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 会報 第15号 1988(昭和63)年9月15日発行

全史料協事務局 埼玉県立文書館

〒336 浦和市高砂4-3-18

(電話 0488-65-0112)

会報編集 茨城県立歴史館

〒310 水戸市緑町2-1-15

(電話 0292-25-4425)

印刷 旬鈴木印刷